

10, 11 月のみごろの花・生きもの

草花



ワレモコウ (吾亦紅)
バラ科 / 9月～風に揺れる花序は秋の風情



セトウチホトギス (瀬戸内杜鵑草)
ユリ科 / 9月下～鳥の朴ギスの羽模様に見立てた



ミゾソバ (溝蕎麦)
タデ科 / 9月下～別名ウシノヒタイ、湿地に群生



イヌタデ (犬蓼)
タデ科 / 9月下～畦を染める“あかまんま”



ヤマハッカ (山薄荷)
シソ科 / 9月下～山に咲く薄荷の意だが香りはない



タコノアシ (蛸の足)
タコノアシ科 / 10月～赤い実は蛸の足そっくり



リンドウ (竜肝)
リンドウ科 / 10月～花は陽を受けて開く



センブリ (千振)
リンドウ科 / 10月～千回振出してもまだ苦い胃薬



リュウノウギク (竜腦菊)
キク科 / 10月下～葉をもむと樟腦のような香り



ヤクシソウ (薬師草)
キク科 / 10月下～遠くからも目を引く晩秋の黄菊



ススキ (芒、薄)
イネ科 / 10月～茅葺屋根の主材料、尾花とも



コウヤボウキ (高野箒)
キク科 / 10月～林縁を彩る落葉小低木

樹木



コバノガマズミ (小葉莢蒾)
スイカズラ科 / 9月下～花、実とも美しい林縁木



ツリバナ (吊花)
ニシキギ科 / 9月下～長い花柄にぶらさがる赤い実



クサギ (臭木)
シソ科 / 10月～赤い萼に瑠璃色の実は染料に

十月旧称 二十四節気 七十二候

神無月 寒露

霜降

鴻雁来／こうがんきたる
菊花開／きくのはなひらく
蟋蟀在戸／きりぎりすとにあり
霜始降／しもはじめてふる
露時施／こさめときどきふる
楓葉黄／もみじつたきばむ

十一月旧称 二十四節気 七十二候

霜月 立冬

小雪

山茶始開／つばきはじめてひらく
地始凍／ちはじめてこおる
金盞香／きんせんかさく
虹蔵不見／にじかくれてみえず
朔風払葉／きたかぜこのをはらう
橘始黄／たちばなはじめてきばむ

樹木



アキグミ (秋茱萸)

グミ科／11月～初め渋いが熟すと甘酸っぱい



カマツカ (鎌柄)

バラ科／10月～折れにくい材は道具の柄とされた



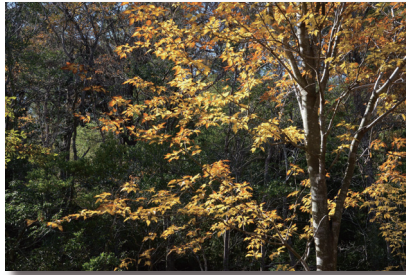
カキノキ (柿の木)

カキノキ科／地元ではクボガキと呼ぶ小さな甘柿



イロハモミジ (いろは紅葉)

ムクロシ科／11月下旬～古くに植えられた紅い大木



タカノツメ (鷹の爪)

ウコギ科／11月下旬～黄葉の林を歩くと甘い香り



コナラ (小楡)

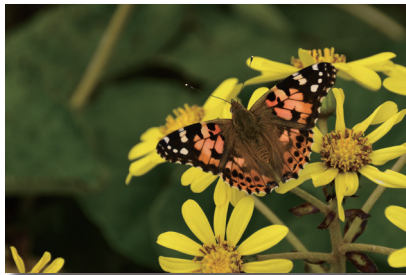
ブナ科／11月下旬～晩秋、雑木林は橙色に燃える

動物



アサギマダラ (浅葱斑)

タテハチョウ科／秋、南の島へと海を渡る蝶



ヒメアカタテハ (姫赤立羽)

タテハチョウ科／キク科草本が主な食草



ヒメアカネ (姫茜)

トンボ科／陽だまりの湿地に止まったカップル



オオカマキリ (大螳螂)

カマキリ科／メスは産卵のあと最期を迎える



ニホンアカガエル (日本赤蛙)

アカガエル科／草むらや湿地、明るい林にすむ



ムギマキ (麦蒔)

ヒタキ科／10月、麦を蒔くころ姿を見せる旅鳥



ジョウビタキ (靱鶯)

ヒタキ科／開けたところを好む冬鳥



ルリビタキ (瑠璃鶯)

ヒタキ科／森にすむ青い冬鳥



カヤネズミ (萱鼠)

ネズミ科／ススキ等に営巣する日本最小のネズミ